



富士山周辺の 外来植物除去について

今年度第2回目の外来植物撲滅大作戦を、10月15日(土)に富士宮口五合目駐車場で行いました。

講師には(株)環境アセスメントセンターを迎え、6人が参加して外来植物の除去を行いました。

富士宮口五合目付近は標高が2400m近くあり、車でアクセスできる場所の標高としては、日本で最も高い所になります。高い標高でしか見られない植物の生育地で、まさに外来植物から守らなければならぬ植物が生育している所になります。



外来植物除去の説明を受ける参加者

市街地とは気温が全く違って季節が進むのが早いので、当日は落ち葉が堆積していたり、枯れてしまっている植物も見られる状況でしたが、ロゼットで冬を越すために根に栄養を溜め込んだセイヨウタンポポ(国外外来種)や、まだ葉が青いヨモギ(国内外来種)等が、在来植物に混じって生育しています。このような生存能力が高い種が在来植物の中に入ってしまくと、在来植物が生存競争に負けて数を減らしてしまいます。



ムラサキモメンツル、タイツリオウギ、イワオウギ、トモエシオガマ、ミヤマアキノキリンソウ等、夏から秋にかけて富士宮口五合目駐車場付近で咲く花は、派手ではないかもしれませんが、人の目を惹きつけてくれますし、昆虫や鳥等が生きていくための糧になります。

高標高地に生育する希少種を守るためには、外来植物が五合目以上に持ち込まれないよう、分布拡大の最前線や、種子の供給源になり得る場所の除去を行う必要があります。

今後も、外来植物撲滅大作戦等を通して、外来植物対策の普及啓発を行っていきますので、皆様も御協力をお願いします。



外来植物除去終了後の靴等の清掃

MN × REPORT



根原県有地の草原維持

令和4年度の根原県有地の草刈り作業が11月に終了しました。草刈りという言葉を使うものの、ノイバラやウツギが人の背丈以上に生育し、草原から森林化しつつある箇所が多かったので、作業していただいた特定非営利活動法人富士山自然の森づくりの皆様にとっても重労働だったと思います。感謝申し上げます。



ボランティア参加者による草刈り

11月3日(木祝)に行われたボランティア参加者を募集した草刈り体験の内容を紹介いたします。晴天の秋空の下、午前中は大鎌や草刈機による草刈り作業を行い、午後は、常葉大学社会環境学部の浅見准教授を講師に、根原草原に関する講義や、設定した区画内の植物調査を行いました。

昼食後の講義では根原周辺の地形の成り立ちや草原の植物について話を伺い、植物調査では環境の違いにより、そこに生育する植物の性質や種数が違うことを実感してもらったなど、頭と体を使って草原について学んでいただきました。

10月には常葉大学の社会環境学部の皆様がゼミ合同演習で訪れ、広範囲の草刈りを行っていただいたことも合わせて、浅見准

教授に感謝申し上げます。

根原周辺や他の草原で行われた調査の結果では、火入れは木本植物の生育を抑えて草原を維持するために効果があるものの、複数年続けて行った場合、ススキ優勢になり、他の植物の勢力が弱まってしまい、植物の種の多様性が低下してしまうことがあるようです。

草原の中でも、ススキ優勢の区域だけではなく、ススキ以外の植物が被圧されずに生育できるような環境も作ることで、植物の多様性を確保し、ひいては昆虫や鳥類等其他の生物の多様性も確保できる、ということになります。

草原の生態系の豊かさを維持し、守れるよう管理をしていくため、今後も草刈り作業や草原の自然を感じていただくイベントを続けていくので、皆様も御協力よろしくお願いたします。



根原県有地に生育する植物の調査

